バラの管理

今年も6月に入りますと，バラの新梢もどんどん伸長し，6月の半ばも過ぎますと，風当りの少ない場所では花蕾も色付き，6月末には立派な一番花が咲き始めます。

また今年の春植付けられたバラ苗も，元気な芽を出し，やはり6月末には一番花が美しく咲き乱れてきます。これからのバラの管理について，少々説明いたしましょう。

基肥については，すでに冬囲いをはずした時に十分施肥されたことと思いますが，今年新しく植えられた方は，まだ施肥されない方もあるかと存じます。

バラは肥料を非常に要するといわれており，追肥も1週間毎ぐらいにというぐらいですが，良い花を沢山咲かせるには十分肥料を施すことが大切です。

追肥としては，乾燥肥料が適当ですが，準備の出来ていない方も多いと思います。(乾燥肥料の作り方は後程説明いたします) 一般に市販されているバラの肥料や，発酵済みの油粕等を追肥として施すことも一方法です。また油粕4l，魚粕2lに米糠少々と水40lを良く混合し，良く発酵させて液肥を作ります。この液肥を10～20倍にうすめて，1～2週間ごとに根元に施用していただきます。蕾が色付き始め，開花するようになりましたら施肥を中止して下さい。

次に乾燥肥料の作り方を説明いたしましょう。油粕4l，骨粉4l，米糠4lに土を8lぐらいの割合で水を注ぎながら良く混合し，陽の当る所に堆積し，2週間くらいに1回の割合いで切返しを2～3回し，良く発酵させます。水の量は足でふみつけた時ににじむ程度でよろしいです。十分発酵しましたら雨の当らぬところに置いて，良く乾燥させて貯蔵いたします。なお発酵中に過燐酸石灰や加里を混合しますと，燐酸，加里の肥効を高めます。

この乾燥肥料は，基肥としても追肥としても，大変便利です。ただし発酵中に大変悪臭を出しますのでこの点気をつけて下さい。

追肥は開花中は一時中止いたします。花が終りましたら二番花，三番花に備えて追肥を行います。8月中旬も過ぎれば，出来るだけ窒素質の肥料の施用を控え，加里系統の肥料を重点にして木を硬く育てて下さい。

夏の管理については，蕾が出て来たら四季咲きの大輪種は，中心花を残して外の蕾を除去しますが，フロリバンダローズはそのままにしておきます。

花が終りましたら，五枚葉を一枚つけて咲がらを切ります。また台芽が発生しましたら見つけ次第除却して下さい。つぎに台芽ではなく根際より元気良く太いシュートですが，6月末から7月中に出たものは高さ30 cmくらいで摘芯しそこから出た枝もさらに3～4節で摘芯してよく内容を充実させます。このシュートは翌年の主枝として使用出来ますが，8月中に発生したシュートは，出来るだけ早い内に除却していただきます。

またバラは大変乾燥を嫌いますので，あまり旱天が続くようでしたら，十分水を与えて下さい。また根の周りに藁等で敷藁をしますと，乾燥防止にもなります。(有機物の補給にもなりますので，出来るだけ使い古しの俵や莚等の利用をおすすめいたします)

次に病害虫防除について説明いたしましょう。

バラの栽培で一番問題となるのは病害虫の防除です。バラの病害虫は非常に多いが，適期に防除すれば簡単に防ぐことが出来ます。

病害について

本道にて良く見られる病害としては，ウドンコ病と黒点病が非常によく見られます。

○ウドンコ病

この病気は高温多湿の年に大変発生します。この病気は特に若い葉や，蕾には白粉を散らしたような症状を呈し，被害の甚だしい時は花まで害します。

病原菌は一種のカビで，ウドン粉状のような物が菌体で，白い粉状の胞子が散って空気伝染します。特にノイバラ，ランブラーに良く発生しますが中心となって一般のバラに感染いたします。品

種により病気に対する抵抗力は異なります。

（防除法）

日光通風を良くし，木を丈夫に育てることです。薬剤撒布としては，石灰硫黄合剤を芽出し前に7～8倍液撒布し，また発生が見えましたら石灰硫黄合剤の80～120倍液を一週間ごとに撒布します。また少々の薬害を気にしなければカラセン水和剤の500倍液を撒布して下さい。なおカラセンは暑い日中に撒布しますと，薬害を生じますので気をつけて下さい。なお病気にかかった葉とか蕾は切取って焼却して下さい。また秋，冬囲いする前に石灰硫黄合剤の7～8倍液を撒布しますと，大変効果があります。

○黒点病

葉に初めに発生します。時期は8～9月頃特に盛夏の頃に多発します。病葉は落葉しやすく，場所によってはほとんど落葉し全く裸のような状態になります。

病原菌は一種のカビで若い病斑の表面や，古い病斑に出来る小粒点の中に入っている胞子により空気伝染します。

防除法としては病葉は集めて焼却する。日光通風を良くし，雨露を良く乾きやすいようにする。薬剤撒布としてはマンネブダイセン水和剤800倍液を始終撒布して下さい。

○根頭癌腫病

この病気は，他の病害とは異なり，葉や茎が侵されるのではなく，根の部分が侵されます。病原菌は，土壌中に生育する細菌で根および地際に発生し，大きなこぶを作ります。病状が進行いたしますと株自体が枯死いたします。この病気は菌を植込む前に良く根を調べ，もしもこぶがついていれば，これを切取り，石灰乳等で消毒して植えつけて下さい。

バラの目立つ病気については大体この三種ですが，花等を侵すハイイロカビ病等がありますが，いずれも早期防除が大切です。

害虫について

害虫については良く見られるものにはあぶら虫，赤ダニ，葉巻虫，チューレンジバチ，カイガラ虫，コガネムシ等があります。

○アブラ虫

この虫は若い葉，芽，蕾等にびっしりむらがって寄生し養分を吸収いたします。防除は簡単でマラソン乳剤の1,000倍液か各種の低毒性の有域燐剤を撒布します。またエカチンTDやPSP204粒剤，ダイジストン粒剤を根元に撒布して下さい。

○赤ダニ

大変小さいのであまり気がつきませんが，特に乾燥続きの時には大発生します。発生場所は葉の裏で多発生しますと葉は黄色となり枯れて落葉します。薬剤防除としては，ケルセンの2,000倍液の撒布かダイジストン粒剤を1株当り5～10gを根元に撒布して下さい。

○カイガラ虫

カイガラ虫は非常に防除が困難ですが，最近では良い防除薬も出てきました。カイガラ虫が大発生しますと枝全体を覆いつくし，樹液を吸いますので木が非常に弱り枯死いたします。従来は春先に硫黄合剤の7～8倍液をかけ，またタワシ等でカイガラをこすり取ったり，また幼虫の孵化期大体6月上旬にマラソン乳剤等で防除しましたが，バーバップ乳剤の500～1,000倍液を繰返し撒布すると防除も出来るようになります。

○ハマキ虫

この虫は幼虫で冬を越し6月上旬には，新しい葉を捲いて食害いたします。防除法としてはマラソン乳剤の1,000倍液かスミチオンの1,000倍液が有効です。

○チューレンジバチ

幼虫は新梢の軟かい葉を，盛んに食害し丸坊主とします。防除法としてはマラソン乳剤の1,000倍液の撒布が有効です。

○コガネ虫

コガネ虫は特に花・蕾を食害し切角の花を台無しにいたします。6月始め頃より成虫は見つけ次第捕殺するかマラソン乳剤の1,000倍液を撒布して下さい。

なお病害虫防除で本数が3～4本位であれば薬剤の調合等も困難なので，最近では殺虫殺菌混合剤のエアゾールタイプの薬品も販売されております。例えばベニカA，ウシコフラバー等は手軽で便利です。

以上簡単ですが，バラの管理について説明いたしました。美しい花を立派に咲かせて下さい。